



竹林

白河市立五箇中学校だより No. 4 6

発行 令和3年3月5日
発行責任者 校長 菅野 靖



真心と感謝の心

3月になり、今年度、最後の月になりました。3年生は、県立高校の前期選抜試験も終了し、12日の卒業式と15日の合格発表を待つのみです。早いもので、後、1ヶ月で3年生は新たなステージで新たな生活が始まります。1、2年生はそれぞれが進級し、中堅学年と最上級生になり、五箇小学校の卒業生を新入生として迎えます。1年間の節目で、お世話になった方との別れと新たな人との出会いがあるこの3月です。真心を感じ、感謝の気持ちを伝え、新たな気持ちでさわやかにスタートが切れる準備をして欲しいと思います。3月1日(月)の全校朝の会で次のような話しをしました。



【全校朝の会の様子】

皆さんは、コロナ禍でもある程度心配することなく当たり前在校舎の施設や設備を使用しています。例えば、蛍光灯が切れてもすぐに交換してもらい、授業や活動に支障がでたりすることがありません。そして、給食の配膳や運搬もすぐに行えるよう食堂に準備されています。ゴミが出ても、集積すれば後は、片づけてもらえます。また、コロナ禍の中でも、机や椅子、窓など気兼ねせずに触れ、授業や部活動など通常にできていますよね。部活動でバレーボールや卓球の玉、ネットや卓球台なども、コロナ感染の意識も少なく普通に使っています。

皆さんが当たり前活動できる裏には、活動を支えてくださっている方の真心があるのを知っていますか。用務員の渡邊さんや大野さん、スクールサポートスタッフの小野寺さんは、皆さんの活動が不自由なくできるようにと、真心をもって校舎や施設設備の管理やコロナウイルス感染症の拡大防止のために取り組んでいらっしゃいます。感染予防のために小野寺さんは、机やイス、校舎の窓や手すりだけでなく、部活動で使用したバレーボールや卓球の玉の一つ一つを消毒してくださっています。

そのような陰で支えてくださっている「縁の下の力持ちの方」への感謝の心を忘れてはいけません。先日、用務員の大野さんから、『校長先生、先日、とてもうれしかったことがあったのです』と話をされました。どのようなことかという、2年生のクラスの蛍光灯が切れていて、交換をしたのだということです。そうしたら、2年生の2人の生徒から『先日、クラスの蛍光灯を交換してくださって、ありがとうございました』と言われたのです。その時、移動教室だったのですが、わざわざ戻ってきてくれて、蛍光灯を交換したことへのお礼を言ってくれたそうです。「本当に、五箇中の生徒は優しいですね。」と嬉しそうでした。

この話を聞いて、校長先生も、そんな生徒は「人への感謝の心」が育っていると感心しました。話を聞いた校長先生も自分のことのようにうれしくなりました。

この生徒のように、自分達への働きかけや気遣いを当たり前のこととは思わず、そのような心遣いを気にかけて、感謝の思いを言葉で表す事は、人と人がより良い関係を築いて生活していくためには大切です。

是非、このような心を五箇中生の全員に育ててほしいです。

真心や感謝の心は、人の心を癒してくれます。自分の今までの失敗や後悔までも許せるくらい心を麗らかにします。真心や感謝の気持ちを持ち続ける人は、周りからもエネルギーをもらい、自分の道を大成させられる人だと思います。

卒業式の全体練習を行いました



【式に臨む姿勢が素晴らしい卒業生】

2月19日に卒業式全体練習が始まり、3月5日は卒業式予行を行いました。卒業式は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用での式への参加となります。また、式にご臨席いただく方にも制限があり、保護者の方と在校生と教職員のみでの卒業式となります。昨年度に引き続き、例年ご臨席いただいている佐川京子様はじめ、学校運営協議会の方々には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。

